200/0298

厚生科学研究費補助金

長寿科学総合研究事業

高齢者のQOL向上を目指した心理・社会的リハビリテーション法の確立に関する研究

平成13年度　総括・分担研究報告書

主任研究者　岡村　　仁

平成14年（2002年）４月

目　　次

I. 総括研究報告書

高齢者のQOL向上を目指した心理・社会的
リハビリテーション法の確立に関する研究 …… 1
岡村　仁

II. 分担研究報告書

高齢者のQOL向上を目指した心理・社会的
リハビリテーション法の確立に関する研究 …… 5
岡村　仁

III. 研究成果の刊行に関する一覧表 …… 9

厚生科学研究費補助金（長寿科学総合研究事業）
総括研究報告書

高齢者のQOL向上を目指した心理・社会的リハビリテーション法の確立に関する研究

主任研究者　岡村　仁　広島大学医学部保健学科教授

研究要旨　高齢者に対するlife review activityの，心理・社会的側面における短期的および中長期的な有効性を検討することを目的に研究を開始した。現在までのところ，同意が得られ適格条件を満たした47名に対して無作為割り付けを行い，24名の介入群と23名の対照群に分類した後に介入を実施し，終了した。経過中，介入群で2名，対照群で4名の脱落がみられたため，最終的に介入群22名，対照群19名の計41名が解析対象となった。現在はまだ症例蓄積中であるが，本研究によりその有効性が示されれば，本法を高齢者のQOL向上を目指す心理・社会的リハビリテーション法のひとつとして確立できると思われる。

分担研究者氏名・所属機関名及び所属機関における職名

研究者氏名	所属機関名及び職名
岡村　仁	広島大学医学部保健学科教授

A. 研究目的

近代医学の進歩により，現在わが国は世界で類をみない高齢化社会を迎えようとしている。しかし，人は65歳以上の老年という世代を迎えると、定年退職に代表されるような社会的役割の喪失を経験するようになる。また，身体的衰えは避けられないものとなり，身近な人間，親しい友人，配偶者との死別を体験するなど老年期はあらゆるものの喪失を体験する世代といわれている。そしてこの喪失体験の克服という課題遂行に失敗すれば，不安，変化する環境への適応障害，うつ病などの心理的苦痛を生じることになる。すなわち，身体的健康だけでなく，精神的健康を維持することの重要性が認識されてきている。こうした高齢者に対する心理・社会的アプローチとして着目されている介入法のひとつにライフレビュー活動がある。以前は高齢者のライフレビューは，過去に対する執着や老化のサインとして、否定的心理過程とみなされてきた。しかし精神科医Butlerは，高齢者が思い出話をする行為を，自然で，普遍的な心理的過程としてとらえ，ライフレビューを行うことで内的葛藤を解決し，それが喪失体験を乗りこえる力となり，人生に新たな意味を与えることになると報告した。しかし、ライフレビュー活動の効果について，多くの研究者が臨床的にその有効性を感じとってはいるものの，未だに治療効果の焦点がはっきりしておらず，しかも実証的にその有効性が検討された報告はない。そこで本研究は，高齢者に対してライフレビュー活動を行い，ライフレビューの効果として本来期待される自我の統合（人生への満足感，自尊心）と絶望（抑うつ，希望のなさ）という心理・社会的側面に対する効果を，無作為比較対照試験を用いて検討することを目的とした。

B. 研究方法

【対象】施設に入所あるいは通所している高齢者のうち，①年齢が 65 歳以上，②過去に精神病歴を持たない，③痴呆，せん妄などの認知障害を認めない，④グループ活動に参加する上で，聴覚的，視覚的，言語的に問題を認めない，⑤研究の趣旨を理解し，文書にて同意の得られる者を対象とした。

【手順】同意の得られた高齢者を，介入群と対照群の 2 群に無作為割り付けした。介入群に対しては毎週 1 回 1 時間，計 8 回のグループライフレビューを施行し，対照群については毎週 1 回 1 時間，計 8 回，健康をテーマとしたグループでの話し合いを行った。

【介入方法】1 グループは，リーダー1 名と対象者 6～10 名とした。介入プログラムの内容については，人生の全体像を回想し，その人の人生を概観することにより統合を高めるというライフレビューの目的に従い，幼年期，学童期，青年期，成人期，現在という年代順に回想していくことを基本とした。

【評価方法】ライフレビュー活動を行う前のベースライン調査として，介入群，対照群の両群に対して，人生への満足度を測定する Life Satisfaction Index, 自尊心を測定する Rosenberg Self-Esteem Scale, 抑うつを測定する Geriatric Depression Scale，希望のなさを測定する Beck Hopelesness Scale の 4 種類の質問紙法を施行するとともに，医学的・社会学的背景を面接により聴取し，介入後，および介入 3 ヵ月後に，再び両群に対してベースラインと同様の質問紙法を行った。

（倫理面への配慮）

本研究は，倫理委員会で承認を受けたプロトコールに基づき，文書にて同意の得られた対象者にのみ実施された。対象者への開示文書中には，研究参加に同意しない場合でも不利益が生じないこと，解析の結果を学会・論文等で発表する場合，被検者の個人情報が明らかになることはない，心理的な質問項目に対し少なからず不快感が生じる可能性があることなどを記載した上で，充分に説明を行い，臨床経験を有する研究者によって十分な配慮のもとに行うこととした。

C. 研究結果

現在までのところ，3 施設，69 名に対する評価を完了した。69 名中，8 名が拒否，14 名が認知障害のため不適格となり，最終的に 47 名が，介入群 24 名と対照群 23 名に無作為割り付けされた。

このうち介入群 24 名については，介入期間中に 1 名が転居のため，介入終了 3 ヵ月後の評価までの間に 1 名が入院のため脱落し，対照群 23 名については，8 回のセッション実施中に 4 名（1 名が転居，3 名が入院）が脱落したため，介入終了 3 ヵ月後の最終データまで得られたのは，介入群 22 名，対照群 19 名となった（図 1）。

引き続きデータの集積を行い，対象者数を増やしていく予定である。

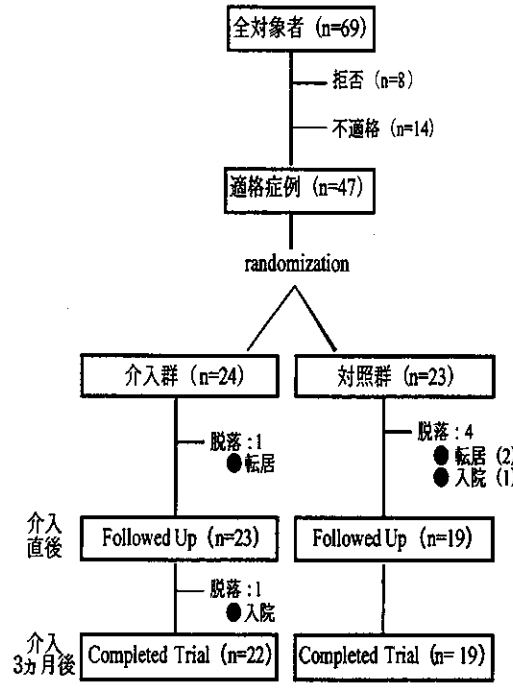

図 1　対象者の流れ

D. 考察

現在はまだ症例の蓄積中であるため中間解析を行っておらず，データ集積が完了した時点で最終解析を行う予定である（来年度に終了の予定）。

現在までのところ，69 名に対してリクルートを行ったが，認知障害（主として痴呆）のために不適格となった症例が多くみられたこと，さらに研究途中での脱落の理由の多くが入院であったことなどから，高齢者に対して臨床研究を行う場合の困難さが示されたといえる。

また，今回の対象者を施設への入所者または通所者としたが，これは施設を利用している高齢者のほうがそうでない高齢者よりも心理的な面でのQOLが不良であると言われているためである。しかし，今後の高齢化社会を考えた場合，施設を利用していない高齢者のQOLにも着目していく必要があると思われ，今後の検討課題と考えている。

E. 結論

本年度はまだ最終結果を提示できないが，本研究の結果から life review activity の有効性を確認できれば、本法を高齢者の QOL 向上を目指す心理・社会的ハビリテーション法のひとつとして利用できると思われる。

F. 健康危険情報

特記すべきことなし

G. 研究発表

論文発表

1) Uchitomi Y, Okamura H, et al: Three sets of diagnostic criteria for major depression and correlations with serotonin-induced platelet calcium mobilization in cancer patients. Psychopharmacology 153: 244-248, 2001

2) Akechi T, Okamura H, et al: Why do some cancer patients with depression desire an early death and others do not? Psychosomatics 42: 141-145, 2001

3) Akechi T, Okamura H, et al: Psychiatric disorders in cancer patients: Descriptive analysis of 1721 psychiatric referrals at two Japanese cancer center hospitals. Jpn J Clin Oncol 31: 188-194, 2001

4) Okuyama T, Okamura H, et al: Fatigue in ambulatory patients with advanced lung cancer: prevalence, correlated factors, and screening. J Pain Symptom Manage 22: 554-564, 2001

5) Fukui S, Okamura H, et al: Participation in psychosocial group intervention among Japanese women with primary breast cancer and its associated factors. Psycho-Oncology 10: 419-427, 2001

6) Okano Y, Okamura H, et al: Mental adjustment to first recurrence and correlated factors in patients with breast cancer. Breast Cancer Res Treat 67: 255-262, 2001

7) Uchitomi Y, Okamura H, et al: Physician support and patients' psychological response after surgery for non-small cell lung cancer: a prospective observational study. Cancer 92: 1926-1935, 2001

8) Murakami Y, Okamura H, et al: Guilt from negative genetic test findings. Am J Psychiatry 158: 1929, 2001

9) Akechi T, Okamura H, et al: Psychiatric disorders and associated and predictive factors in patients with unresectable nonsmall cell lung carcinoma. A longitudinal study. Cancer 92: 2609-2622, 2001

10) 新宮尚人, 岡村　仁, 他: 精神分裂病の作業療法の治療要因と社会生活能力との関連. 作業療法 20: 579-589, 2001

11) 岡村　仁, 他: 遺伝性腫瘍に関する情報開示とサイコオンコロジー. 広島大学保健学ジャーナル 1: 16-21, 2001

12) Akechi T, Okamura H, et al: Psychiatric evaluation of competency in cancer patients. International Journal of Psychiatry in Clinical Practice (in press)

学会発表

1) Okamura H: Psychosocial aspects of genetic counseling. The 14th International Symposium of Foundation for Promotion of Cancer Research, Tokyo, January 24-26, 2001

2) 岡村　仁: がん医療における情報開示とサイコオンコロジー. 第 89 回日本泌尿器科学会総会 教育セミナー, 2001 年 4 月, 神戸

3) 内富庸介, 岡村　仁, 他: がん医療におけるコミュニケーション技術訓練法. 第6回日本緩和医療学会総会 ワークショップ. 2001 年 6 月, 東京
4) 福井小紀子, 岡村　仁, 他: 初発乳がん患者に対する心理社会的グループ介入の有効性. 第 6 回日本緩和医療学会総会 ワークショップ. 2001 年 6 月, 東京
5) 岡村　仁: がん遺伝子診断の心理・社会的側面. 第 46 回日本人類遺伝学会 ランチョンセミナー, 2001 年 10 月, 大宮
6) 岡村　仁, 他: がん患者に対する集団精神療法（グループ療法）. 第 14 回日本総合病院精神医学会総会 ワークショップ. 2001 年 11 月, 新潟
7) 内富庸介, 岡村　仁, 他: がん専門医を対象にしたコミュニケーション技術訓練. 第 14 回日本総合病院精神医学会総会 ワークショップ. 2001 年 11 月, 新潟
8) 井上真一, 岡村　仁, 他: Family Relationship Index (FRI)によるがん家族のタイプ分類の試み－乳がん患者 72 例とその家族における予備的検討－. 第 14 回日本サイコオンコロジー学会総会. 一般演題. 2001 年 6 月, 甲府
9) 岡村　仁, 他: 再発乳がん患者の心理的負担とその危険因子に関する検討. 第 60 回日本癌学会総会. 一般演題. 2001 年 10 月, 横浜
10) 内富庸介, 岡村　仁, 他: 医師のサポートと肺がん患者術後の心理的反応. 第 60 回日本癌学会総会. 一般演題. 2001 年 10 月, 横浜
11) 萬谷智之, 岡村　仁, 他: 早期乳がん患者の心理的態度（コーピング）と家族機能に関する検討. 第 39 回日本癌治療学会総会. 一般演題. 2001 年 10 月, 広島
12)井上真一, 岡村　仁, 他: 家族機能に基づくがん家族のタイプ分類－Family Relationship Index (FRI)を用いて－.第 14 回日本総合病院精神医学会総会. 一般演題. 2001 年 11 月, 新潟
13) 内富庸介, 岡村　仁, 他: がん専門医のサポートと肺がん患者の心理的反応.第 14 回日本総合病院精神医学会総会. 一般演題. 2001 年 11 月, 新潟

厚生科学研究費補助金（長寿科学総合研究事業）
分担研究報告書

高齢者のQOL向上を目指した心理・社会的リハビリテーション法の確立に関する研究

分担研究者　岡村　仁　広島大学医学部保健学科教授

研究要旨　高齢者に対するlife review activityの，心理・社会的側面における短期的および中長期的な有効性を検討することを目的に研究を開始した。現在までのところ，同意が得られ適格条件を満たした47名に対して無作為割り付けを行い，24名の介入群と23名の対照群に分類した後に介入を実施し，終了した。経過中，介入群で2名，対照群で4名の脱落がみられたため，最終的に介入群22名，対照群19名の計41名が解析対象となった。現在はまだ症例蓄積中であるが，本研究によりその有効性が示されれば，本法を高齢者のQOL向上を目指す心理・社会的リハビリテーション法のひとつとして確立できると思われる。

A. 研究目的

近代医学の進歩により，現在わが国は世界で類をみない高齢化社会を迎えようとしている。しかし，人は65歳以上の老年という世代を迎えると、定年退職に代表されるような社会的役割の喪失を経験するようになる。また，身体的衰えは避けられないものとなり，身近な人間，親しい友人，配偶者との死別を体験するなど老年期はあらゆるものの喪失を体験する世代といわれている。そしてこの喪失体験の克服という課題遂行に失敗すれば，不安，変化する環境への適応障害，うつ病などの心理的苦痛を生じることになる。すなわち，身体的健康だけでなく，精神的健康を維持することの重要性が認識されてきている。こうした高齢者に対する心理・社会的アプローチとして着目されている介入法のひとつにライフレビュー活動がある。以前は高齢者のライフレビューは，過去に対する執着や老化のサインとして、否定的心理過程とみなされてきた。しかし精神科医Butlerは，高齢者が思い出話をする行為を，自然で，普遍的な心理的過程としてとらえ，ライフレビューを行うことで内的葛藤を解決し，それが喪失体験を乗りこえる力となり，人生に新たな意味を与えることになると報告した。しかし、ライフレビュー活動の効果について，多くの研究者が臨床的にその有効性を感じとってはいるものの，未だに治療効果の焦点がはっきりしておらず，しかも実証的にその有効性が検討された報告はない。そこで本研究は，高齢者に対してライフレビュー活動を行い，ライフレビューの効果として本来期待される自我の統合（人生への満足感，自尊心）と絶望（抑うつ，希望のなさ）という心理・社会的側面に対する効果を，無作為比較対照試験を用いて検討することを目的とした。

B. 研究方法

【対象】施設に入所あるいは通所している高齢者のうち，①年齢が65歳以上，②過去に精神病歴を持たない，③痴呆，せん妄などの認知障害を認めない，④グループ活動に参加する上で，聴覚的，視覚

的，言語的に問題を認めない，⑤研究の趣旨を理解し，文書にて同意の得られる者を対象とした。

【手順】同意の得られた高齢者を，介入群と対照群の2群に無作為割り付けした。介入群に対しては毎週1回1時間，計8回のグループライフレビューを施行し，対照群については毎週1回1時間，計8回，健康をテーマとしたグループでの話し合いを行った。

【介入方法】1グループは，リーダー1名と対象者6～10名とした。介入プログラムの内容については，人生の全体像を回想し，その人の人生を概観することにより統合を高めるというライフレビューの目的に従い，幼年期，学童期，青年期，成人期，現在という年代順に回想していくことを基本とした。

【評価方法】ライフレビュー活動を行う前のベースライン調査として，介入群，対照群の両群に対して，人生への満足度を測定するLife Satisfaction Index，自尊心を測定するRosenberg Self-Esteem Scale，抑うつを測定するGeriatric Depression Scale，希望のなさを測定するBeck Hopelesness Scaleの4種類の質問紙法を施行するとともに，医学的・社会学的背景を面接により聴取し，介入後，および介入3ヵ月後に，再び両群に対してベースラインと同様の質問紙法を行った。

（倫理面への配慮）

本研究は，倫理委員会で承認を受けたプロトコールに基づき，文書にて同意の得られた対象者にのみ実施された。対象者への開示文書中には，研究参加に同意しない場合でも不利益が生じないこと，解析の結果を学会・論文等で発表する場合，被検者の個人情報が明らかになることはない，心理的な質問項目に対し少なからず不快感が生じる可能性があることなどを記載した上で，充分に説明を行い，臨床経験を有する研究者によって十分な配慮のもとに行うこととした。

C．研究結果

現在までのところ，3施設，69名に対する評価を完了した。69名中，8名が拒否，14名が認知障害のため不適格となり，最終的に47名が，介入群24名と対照群23名に無作為割り付けされた。

このうち介入群24名については，介入期間中に1名が転居のため，介入終了3ヵ月後の評価までの間に1名が入院のため脱落し，対照群23名については，8回のセッション実施中に4名（1名が転居，3名が入院）が脱落したため，介入終了3ヵ月後の最終データまで得られたのは，介入群22名，対照群19名となった（図1）。

引き続きデータの集積を行い，対象者数を増やしていく予定である。

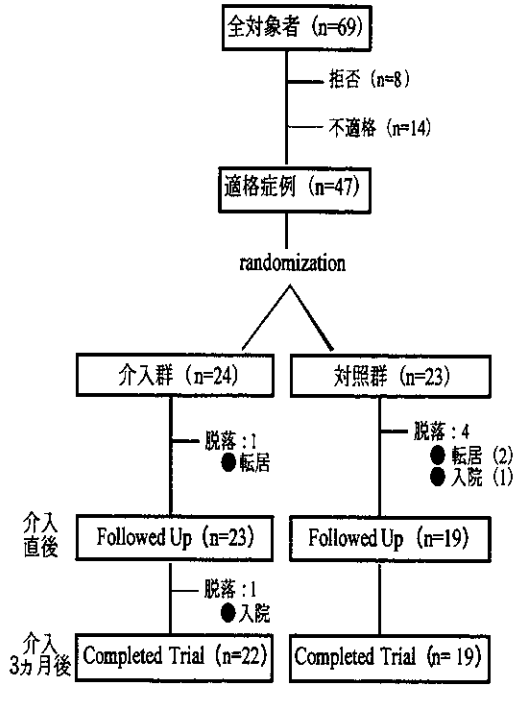

図1　対象者の流れ

D．考察

現在はまだ症例の蓄積中であるため中間解析を行っておらず，データ集積が完了した時点で最終解析を行う予定である（来年度に終了の予定）。

現在までのところ，69 名に対してリクルートを行ったが，認知障害（主として痴呆）のために不適格となった症例が多くみられたこと，さらに研究途中での脱落の理由の多くが入院であったことなどから，高齢者に対して臨床研究を行う場合の困難さが示されたといえる。

また，今回の対象者を施設への入所者または通所者としたが，これは施設を利用している高齢者のほうがそうでない高齢者よりも心理的な面でのQOLが不良であると言われているためである。しかし，今後の高齢化社会を考えた場合，施設を利用していない高齢者のQOLにも着目していく必要があると思われ，今後の検討課題と考えている。

E. 結論

本年度はまだ最終結果を提示できないが，本研究の結果から life review activity の有効性を確認できれば、本法を高齢者の QOL 向上を目指す心理・社会的ハビリテーション法のひとつとして利用できると思われる。

F. 健康危険情報

特記すべきことなし

G. 研究発表

論文発表

1) Uchitomi Y, Okamura H, et al: Three sets of diagnostic criteria for major depression and correlations with serotonin-induced platelet calcium mobilization in cancer patients. Psychopharmacology 153: 244-248, 2001

2) Akechi T, Okamura H, et al: Why do some cancer patients with depression desire an early death and others do not? Psychosomatics 42: 141-145, 2001

3) Akechi T, Okamura H, et al: Psychiatric disorders in cancer patients: Descriptive analysis of 1721 psychiatric referrals at two Japanese cancer center hospitals. Jpn J Clin Oncol 31: 188-194, 2001

4) Okuyama T, Okamura H, et al: Fatigue in ambulatory patients with advanced lung cancer: prevalence, correlated factors, and screening. J Pain Symptom Manage 22: 554-564, 2001

5) Fukui S, Okamura H, et al: Participation in psychosocial group intervention among Japanese women with primary breast cancer and its associated factors. Psycho-Oncology 10: 419-427, 2001

6) Okano Y, Okamura H, et al: Mental adjustment to first recurrence and correlated factors in patients with breast cancer. Breast Cancer Res Treat 67: 255-262, 2001

7) Uchitomi Y, Okamura H, et al: Physician support and patients' psychological response after surgery for non-small cell lung cancer: a prospective observational study. Cancer 92: 1926-1935, 2001

8) Murakami Y, Okamura H, et al: Guilt from negative genetic test findings. Am J Psychiatry 158: 1929, 2001

9) Akechi T, Okamura H, et al: Psychiatric disorders and associated and predictive factors in patients with unresectable nonsmall cell lung carcinoma. A longitudinal study. Cancer 92: 2609-2622, 2001

10) 新宮尚人, 岡村　仁, 他: 精神分裂病の作業療法の治療要因と社会生活能力との関連. 作業療法 20: 579-589, 2001

11) 岡村　仁, 他: 遺伝性腫瘍に関する情報開示とサイコオンコロジー. 広島大学保健学ジャーナル 1: 16-21, 2001

12) Akechi T, Okamura H, et al: Psychiatric evaluation of competency in cancer patients. International Journal of Psychiatry in Clinical Practice (in press)

学会発表

1) Okamura H: Psychosocial aspects of genetic counseling. The 14th International Symposium of Foundation for Promotion of Cancer Research, Tokyo, January 24-26, 2001

2) 岡村　仁: がん医療における情報開示とサイコオンコロジー. 第 89 回日本泌尿器科学会総会 教育セミナー, 2001 年 4 月, 神戸

3) 内富庸介, 岡村　仁, 他: がん医療におけるコミュニケーション技術訓練法. 第 6 回日本緩和医療学会総会 ワークショップ. 2001 年 6 月, 東京

4) 福井小紀子, 岡村　仁, 他: 初発乳が

ん患者に対する心理社会的グループ介入の有効性. 第 6 回日本緩和医療学会総会ワークショップ. 2001 年 6 月, 東京
5) 岡村 仁: がん遺伝子診断の心理・社会的側面. 第 46 回日本人類遺伝学会 ランチョンセミナー, 2001 年 10 月, 大宮
6) 岡村 仁, 他: がん患者に対する集団精神療法（グループ療法）. 第 14 回日本総合病院精神医学会総会 ワークショップ. 2001 年 11 月, 新潟
7) 内富庸介, 岡村 仁, 他: がん専門医を対象にしたコミュニケーション技術訓練. 第 14 回日本総合病院精神医学会総会ワークショップ. 2001 年 11 月, 新潟
8) 井上真一, 岡村 仁, 他: Family Relationship Index (FRI)によるがん家族のタイプ分類の試み－乳がん患者 72 例とその家族における予備的検討－. 第 14 回日本サイコオンコロジー学会総会. 一般演題. 2001 年 6 月, 甲府
9) 岡村 仁, 他: 再発乳がん患者の心理的負担とその危険因子に関する検討. 第 60 回日本癌学会総会. 一般演題. 2001 年 10 月, 横浜
10) 内富庸介, 岡村 仁, 他: 医師のサポートと肺がん患者術後の心理的反応. 第 60 回日本癌学会総会. 一般演題. 2001 年 10 月, 横浜
11) 萬谷智之, 岡村 仁, 他: 早期乳がん患者の心理的態度（コーピング）と家族機能に関する検討. 第 39 回日本癌治療学会総会. 一般演題. 2001 年 10 月, 広島
12)井上真一, 岡村 仁, 他: 家族機能に基づくがん家族のタイプ分類－Family Relationship Index (FRI)を用いて－.第 14 回日本総合病院精神医学会総会. 一般演題. 2001 年 11 月, 新潟
13) 内富庸介, 岡村 仁, 他: がん専門医のサポートと肺がん患者の心理的反応.第 14 回日本総合病院精神医学会総会. 一般演題. 2001 年 11 月, 新潟

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書　籍　名	出版社名	出版地	出版年	ページ
岡村　仁, 他	精神科からみたガイドライン	竜　崇正, 寺本龍生	がん告知 – 患者の尊厳と医師の義務-	医学書院	東京	2001	23-28
岡村　仁	胃を切った人に起こる「抑うつ」	松尾　裕	胃を切った人・警戒したい12疾患	協和ブックス	東京	2001	293-303
山本大誠, 岡村　仁 (訳)	緩和ケアにおける症状管理への認知-行動学的アプローチ	内富庸介	緩和医療における精神医学ハンドブック	星和書店	東京	2001	239-256

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Uchitomi Y, Okamura H, et al	Three sets of diagnostic criteria for major depression and correlations with serotonin-induced platelet calcium mobilization in cancer patients	Psychopharma-cology	153	244-248	2001
Akechi T, Okamura H, et al	Why do some cancer patients with depression desire an early death and others do not?	Psychosomatics	42	141-145	2001
Akechi T, Okamura H, et al	Psychiatric disorders in cancer patients: Descriptive analysis of 1721 psychiatric referrals at two Japanese cancer center hospitals	Jpn J Clin Oncol	31	188-194	2001
Okuyama T, Okamura H, et al	Fatigue in ambulatory patients with advanced lung cancer: prevalence, correlated factors, and screening	J Pain Symptom Manage	22	554-564	2001
Fukui S, Okamura H, et al	Participation in psychosocial group intervention among Japanese women with primary breast cancer and its associated factors	Psycho-Oncology	10	419-427	2001
Okano Y, Okamura H, et al	Mental adjustment to first recurrence and correlated factors in patients with breast cancer	Breast Cancer Res Treat	67	255-262	2001
Uchitomi Y, Okamura H, et al	Physician support and patients' psychological response after surgery for non-small cell lung cancer: a prospective observational study	Cancer	92	1926-1935	2001

Murakami Y, Okamura H, et al	Guilt from negative genetic test findings	Am J Psychiatry	158	1929	2001
Akechi T, Okamura H, et al	Psychiatric disorders and associated and predictive factors in patients with unresectable nonsmall cell lung carcinoma. A longitudinal study	Cancer	92	2609-2622	2001
新宮尚人, 岡村　仁, 他	精神分裂病の作業療法の治療要因と社会生活能力との関連	作業療法	20	579-589	2001
岡村　仁, 他	遺伝性腫瘍に関する情報開示とサイコオンコロジー	広島大学保健学ジャーナル	1	16-21	2001
Akechi T, Okamura H, et al	Psychiatric evaluation of competency in cancer patients.	International Journal of Psychiatry in Clinical Practice			in press